

智福寺、八坂神社(毛呂山町)

ここは智福寺で左隣が八坂神社



弘安・慶長の板碑/毛呂山町の指定文化財



右側は鎌倉時代後期 応長元年 1311年の板碑



鎌倉時代中期 弘安三年(1280)の銘がある板碑



板碑は、江戸末期に廃寺となった近くの常楽寺境内にあったもので、一時所在が不明になっていたが、山林に埋められていることが判明し、昭和四十三年(1968)に発掘された。その後、保存の為 智福寺境内に移されたという。

さまざまな石造物





隣の八坂神社





八坂神社の由来と行事

江戸期、当地は大久保村と呼ばれ、鎮守として牛頭天王社(当社)を祀っていた。

主祭神は、須佐之男尊で、内陣には束帯の神像を安置する。また、合祀神は宇気母智神、別雷神、大山咋神の三柱である。

別当は当社に隣接する真言宗金玉山智福寺が務めていたが、明治初年、当社は神仏分離により、智福寺の管理を離れ、社名も八坂社と改め、同五年村社となった。

明治四十年三月十六日、宇谷ノ中の稻荷社、宇下原の雷電社、宇上の日枝神社を当社本殿に合祀した。しかし、宇上では、日枝神社が合祀されてから疫病がはやったため、神罰であろうということになり、元地に戻された。

年中行事は、春祭り・夏祭り・秋祭り・大祓の四回である。

三月五日の春祭りは、当社が明治五年三月五日に村社になったため、これを記念して、その後は例大祭となっていた。この祭典には町長や学校の生徒が参列し、町の式典の一つに数えられていた。しかし、戦後、氏子の中から例大祭を元の夏祭りに戻そうとの声上がり、現在は旧来通り夏に例大祭が行われている。

夏祭りは天王様とも呼ばれ、地区内の疫病を祓う祭りであり、現在七月十五日に行われており、祭典では悪疫除け祈願がある。明治中頃までは、地区内を山車が回り、大正期には、川越の地芝居や比企の万作踊りを頼んで祭りを盛り上げ、当社の最も重要な祭りであった。秋祭りは、以前十一月二十七日であったが、現在二十三日を祭日として、豊作感謝の祭りが行われている。

大祓は氏子の罪穢れを除く行事で、十二月三十一日に行われている。

当社において、神職が関与せず氏子だけが行う神事に、元旦の初詣とお九日がある。お九日は本来十月十九日であったと思われ、古くは子供の行事であったが、現在は十月十日頃、氏子総代が氏子を率いて当社に参拝している。

なお、宇上の日枝神社は合祀社であるが、元地に社が残り、山王様と呼ばれ、四月十六日に祭りが行われている。

社殿



境内社



ここは城西大学の野球場グラウンド



この右手に常楽寺があったと聞く







これは「赤道」であり、昔は常楽寺付近を通る街道だったのかもしれない/この辺りに弘安三年(1280)の板碑 が立っていたのか？



参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/kawai5510/saitama-moroyama-tihukuji-1.html>

<http://www.geocities.jp/kawai5510/saitama-moroyama-tihukuji-2.html>

http://blog.goo.ne.jp/iitto0_2005/e/74e211a3f18ee5d647ab3840728373ae

